

長門市立日置小学校、神田小学校の児童がシイタケの種駒打ち作業を体験

令和5年2月21日(火)、長門市立油谷小学校において、3年生児童22名、長門市立神田小学校3・4年生児童5名がシイタケの駒打ち体験をしました。

これは、次世代を担う子供たちに、ふるさとの森林の大切さやそれを支える林業の役割について、興味、関心をもってもらうために、「千畳敷里山の会」(会長：長富隆士)が行ったものです。

当日は、会長によるあいさつと長門農林水産事務所職員からシイタケの話がありました。

続いて会員の指導のもと、原木に各自電気ドリルを使って穴をあけ、木槌で駒の打ち込みを行いました。

時折、小雪の舞う天候の中、児童たちは、電気ドリルの穴あけなど、初めての経験に戸惑いながらも楽しく作業をしていました。

作業終了後、児童からお礼のあいさつと、最後に記念撮影を行いました。

千畳敷里山の会では、今後もこのような森林体験学習を継続し、子供たちの森林に対する意識を高めていくこととしています。



駒打ち体験



集合写真